

兵庫・梶原遺跡

かじわら

所在地

兵庫県朝来郡山東町樂音寺

調査期間

一九九八年（平10）九月～一〇月

発掘機関

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査担当者

吉識雅仁・佐々木俊彦

遺跡の種類

集落跡

遺跡の年代

奈良時代・中世

遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、山東盆地西端の丘陵地帯に入り込んだ東西方向の谷部に

面した、小さな枝谷に位置する。この枝谷は南に開口し、北・西・

東の三方を丘陵に囲まれた袋状を呈し、北・東の傾斜は急で、西斜面のみが緩やかな傾斜となっている。

今回は、北近畿豊岡自動車道建設に伴う確認調査である。調査の結果、西側斜面で、整地跡とその上部から掘り込まれた柱穴などを



（但馬竹田）

検出した。確認調査のため、遺構の性格などは不明だが、整地層の上面から奈良時代の土器が出土している。出土した遺物は奈良時代の須恵器・土師器が中心だが、一部中世の土師器・小札がある。

木簡は、袋状谷部の中央に設定したトレンチの黒色シルトから土師器の鍋などとともに、一点出土した。ただ、谷部の中央であることから、湧水が激しく、完全な調査は行ない得なかつた。そのため、この層の性格ははつきりしないが、包含層と考えている。

8 木簡の釈文・内容

（1）「□候て納了

永仁五[]（花押）」

134×(42)×4 081

上端・下端とも平らに切断され、右辺は面調整されている。左辺は欠けている。永仁五年は一二九七年にあたる。

なお、本木簡の釈読にあたつては兵庫県立歴史博物館の熱田公氏・小林基伸氏にご協力いただいた。

（吉識雅仁）

